



学校だより

令和2年度 社会創生プロジェクトの取組

平成30年度より始まった「社会創生プロジェクト（以下：社創）」。文部科学省の研究開発の指定を受けた新しい学習です。特に前期課程では、国語科「話すこと・聞くこと」「書くこと」の2領域と総合的な学習の時間及び生活科を包括した学習として取り組んでいます。

発達段階に応じ、1・2年生（1段階）、3・4年生（2段階）、5・6年生（3段階）、7～9年生（4段階）として協働探究カリキュラムを組み、長い期間の学びを紡いでいきます。また、「発意－構築－遂行・表現－省察」の5つの過程を1つの探究サイクルとして構成し、このサイクルを繰り返していきます。

このような学習を積み重ねることで、社会に意思をもって生き、自立的な学びができる子供を育てるために必要な資質・能力を育てていきます。

今年度はコロナ禍の中、取り組む内容が制限されてしまいますが、その中でも子供たちは工夫を重ねながら学習を進めています。

[1年生]：『みんな なかよし』

まずはクラスや学年の友達となかよくなる活動から始めました。次に、先生と名刺交換や学校探検、2年生や6年生との交流などを通してどんどんなかよしの輪を広げていきました。さらに、休校中に種まきをして、水やりを欠かさずに育てたあさがおとは、色水をつくったり、種を取ったり、つるでリースをつくったりしてなかよくなりました。

すると、仲間を助ける思いやりの心をもつこと、あいさつで心を開くこと、共に作ったり遊んだりして心を通わせることなどが大切だという気持ちが子供たちの中に根付いていきました。

秋も深まった頃、秋のおもちゃランドを開くことになりました。自分だけでなく他の人にも秋となかよくなってほしいという発意が生まれ、いよいよ本格的なプロジェクトが立ち上がりました。

[2年生]：『スマイルプロジェクト』

「1年生を笑顔にする活動がしたい」という思いからプロジェクトがスタートしました。コロナ禍の中、どのようなことができるかについてアイデアを出し合い、話し合いを進めました。

－1年生に学校の魅力を伝えよう－ ……「学校を好きになってほしい」「笑顔で学校生活を送ってほしい」という願いから、「勉強」「教室」「自然」「先生」の4つのグループに分かれて魅力を紹介しました。クイズや体験を取り入れながら発表することができました。

－おもちゃランド－ ……社創や国語、造形で動くおもちゃ作りに取り組んだ子供たち。このおもちゃで1年生を笑顔にできるのではないかと考え始めました。1組は1年生とおもちゃを作り遊びます。2組は自作のおもちゃで1年生と遊びます。国語で学んだことを生かし、作り方の説明書作りに取り組んだり、遊び方や場がよりよいものになるように試行錯誤したりしながら準備を進めています。本番では、たくさんの笑顔が見られそうです。

[3年生]：『幸せって何だろう？－「生きる」を考える－』

1・2年生のころ、下学年の子を笑顔にしようとして協働探究を進めてきた子供たち。3年生では、1つ繰り上げて、笑顔の奥にある幸せについて探究していくことになりました。

「学校みんなの幸せをつくりたい」という発意が生まれ、学校をきれいにする清掃活動が始まりました。「おそうじたい」の結成です。休み時間になるたびに、自分たちで見つけた汚れた箇所をぞうきん一つできれいにしました。みなさんからたくさんの誉め言葉をもらい、意欲が向上し、「みんながきれいにしてほしい」と思っている所をきれいにすると、もっと幸せをつくることできるんじゃないか」という声があがり、清掃場所を募集するポストを設置し、「おそうじ会社」を設立しました。

今では、前期課程・後期課程の児童生徒や先生方、教職大学院の先生からたくさんの依頼を受けて、みんなの幸せのためにおそうじ真っ最中です。



[4年生]：『コロナに負けずに広がれ！遊びの輪』

前年度は、「食」をテーマに活動しました。しかし、コロナ禍の中、活動の継続を断念しました。

新しいテーマの設定です。「コロナ禍でも遊びを通して楽しく過ごしたい」という願いから、今の状況でも楽しめる「遊び」を考えることになりました。最初、自分たちで考え、創作した「遊び」を企画・運営する中で、課題を見つけ、工夫を繰り返しました。その後、形になってきた「遊び」を、3年生や6年生に紹介しました。楽しそうに遊んでくれる3年生や6年生から、自信をもらいました。紹介する楽しさを感じることもできました。さらに、6年生からもらったアドバイスを生かし、もっと楽しく遊べる工夫を考えました。今後は、楽しい「遊び」づくりを継続し、多くの人たちと関わる輪を広げていきたいと考えています。

想像創造
〔5年生〕：『幸福井・未来』

これからの2年間の活動について話し合う中で、福井県が「幸福度」全国1位であることを知りました。話し合いの中で、“福井県に住む私たちは本当に幸福を感じているのだろうか？”“こんなにすばらしい福井県をもっと他県の人に知ってほしい！”“そもそも幸福って何だろう？”といった疑問や思いが出てきたことから、このテーマを設定しました。

まずは、実態調査を行いました。幸福についてどのように考えているかについて、コロナ禍の状況でしたので、基本的に自分の家族を対象にインタビュー活動を行いました。その結果を考察し、追究したいことを見だし、調査しています。調査活動で得たことをもとに、広い視野をもって今後の活動の方向性を見いだしていきます。

〔6年生〕：『頭・心・5感フル活用 つながろう・つなげよう』

5年生の秋から『福井に思いをもって活動する人』に注目し、出前授業などでその思いに触れ、自分たちの思いや活動と重ねながら学びを進めてきました。今年度は、5年生と7年生とラウンドテーブルを行ったり、「1年生とつながろう、1年生をつなげようプロジェクト」として1年生を紹介するフリーペーパーを作成したりして、校内でのつながりを深める活動をしました。また10月ごろからは、ビデオ会議システムを活用して、校外の人とも交流し、「まちづくり」の新たな視点を学びました。現在も「福井をよりよく」という大きな目標に向かって活動しています。年度末には、前期課程の集大成として2年間にわたる社創の学びを発信し、「福井と自分がつながる」とはどういうことかを考えることで、社創の学びを将来へとつなげていきたいと思っています。

〔7年生〕：『まちづくり』

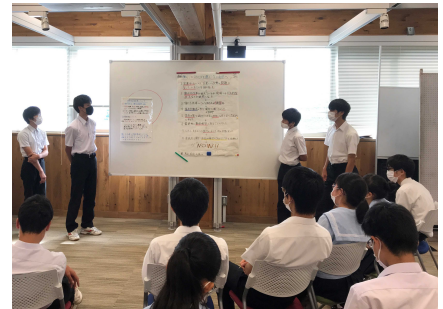
7年生のテーマは前期課程での経験を生かし「まちづくり」に決定しました。文化祭では8、9年生からのアドバイスをふまえて、それぞれが調べた「まちづくり」の内容を共有するためにラウンドテーブルを行いました。また、8年生の中間発表を参観することで、探究や表現の方法などについて視点を広げることができました。これらの学びを経て7年生108人がめざす「まちづくり」について「戻ってきたくなるまち：育てる・出る・戻る」という具体像を設定しました。このサイクルを調査していくために15部門に分かれ探究のサイクルを繰り返し、活動を進めています。

コロナ禍における今年度ですが「まちづくり」を行っている人から生の声を聞くために、部門ごとでアポイントメントをとり、遠隔会議システムなどを用いて交流を行って探究を進めていきたいと考えています。

〔8年生〕：『Happy World in the Future』

7年生では、「Make-A-Wish Japan」の講演を機に、他者の願いに沿って活動するという新たな視点を獲得しました。それをふまえて実際にプロジェクトを遂行しようとしたのですが、直前で新型コロナウイルス感染症が広まりました。

8年生のスタートは、プロジェクトの練り直しから始まりました。対面で行えなくなったプロジェクトや相手のニーズそのものが変わってしまったプロジェクト…。様々な制限がある中でも粘り強く再構築していく姿が見られました。その後の文化祭では、プロジェクトのあゆみを丁寧に協働で省察し、学びが深まった場面や幸せに対する価値観が変わった場面を他学年に発信しました。現在は、学びや活動の練り上がりを意識しながら、学校外の人たちとつながって情報収集し、学年プロジェクトの集大成に向けて動き出そうとしているところです。



〔9年生〕：『未来創作』

部門別班を中心に探究を進めてきました。8年生の1月には修学旅行を見据え「気付き・築く～人とつながり未来へつなげる～」をテーマに掲げて福井駅周辺等でイベントを開催し、不特定多数の人々からアドバイスをいただきました。しかし、新型コロナウイルス感染拡大の影響により「人とのつながり」という交流活動が困難になったため、活動をホームページやパンフレットにまとめて発信する方法に切り替え、現在も活動中です。

また、9年生の文化祭では、学年プロジェクトで培った合意形成力や、粘り強く取り組む力などを活用しながら演劇活動に取り組み、それぞれのクラスが未来創作に関連したテーマを設定して表現しました。

現在は、今までの学年プロジェクト全体を俯瞰して、未来創作というテーマの解明に向けて、答えを導き出そうとしているところです。

このように長期的なプロジェクト型学習を義務教育9ヶ年で発展的に積み重ねています。

今後は状況を判断しながら、異学年の交流、他学校や地域の方との交流、発信等も可能な限り行いたいと考えております。

保護者の皆様には、これからも「社会創生プロジェクト」での子供たちの学びを温かく見守っていただけたらと思っております。



よいお年をお迎えください。